ポットハボタンの着色及び生育を良好にする施肥技術

ポットハボタンは着色が良好で、かつ葉数が多く生体重の大きいものは商品価値が高い。栽培後期の追肥量が多いと着色不良となるため、追肥を少なくする必要があるが、一方で下葉の落葉やボリューム不足による品質低下が問題となっている。そこで、高品質商品の生産には、追肥総窒素量240mg/鉢で10月末までの追肥が適切であることを明らかにした。

内　容

「晴姿」（白色・丸葉）を供試し、2010年８月５日に288穴セルトレイには種、８月30日に９cm鉢に鉢上げした。９月28日から、週に１、２回ずつ、10月15日又は31日まで、追肥として窒素濃度100、400、800ppmの液体肥料（N：P_2O_5：K_2O=15：９：８）を100ml／鉢 施用した（表）。

葉色は追肥量を少なくすると着色変化が早くなる傾向が見られ、11月30日における着色部率は、40%以上を商品の基準と判断すると、追肥総窒素量が240mg以下で基準以上となったのに対して、480mg以上では基準以下で着色不良となった（図１、写真）。生育については、葉数60枚以上を商品の基準と判断すると、追肥総窒素量120mg以下で基準以下となった（図２）。また、240mgでも追肥を10 月15日で終了すると基準以下となった。生体重も葉数と同じ傾向が見られ、追肥総窒素量240mg以上で10月31日までの追肥により基準以上となった（データ略）。

以上の結果から、追肥総窒素量は240mgが適当であり、10月31日まで追肥を続けると着色不良を伴わず葉数及び生体重を確保できることが明らかとなった。

普及上の注意事項

着色した株を15℃以上の高温下に移すといずれの区においても同程度の割合で再緑化が発生した。着色開始後に高温に遭遇した場合、追肥量に関わらず再緑化は発生すると考えられる。

水谷　祐一郎　（農産園芸部）
（問い合わせ先　電話：0790－47－2424）

表　追肥の試験処理区

試験区	液肥の窒素濃度（ppm）	施用頻度	追肥終了日	追肥総窒素量（mg/鉢）
A	100	週2回	10月31日	120
B	400	週1回	10月15日	120
C	400	週1回	10月31日	240
D	400	週2回	10月15日	240
E	400	週2回	10月31日	480
F	800	週2回	10月31日	960

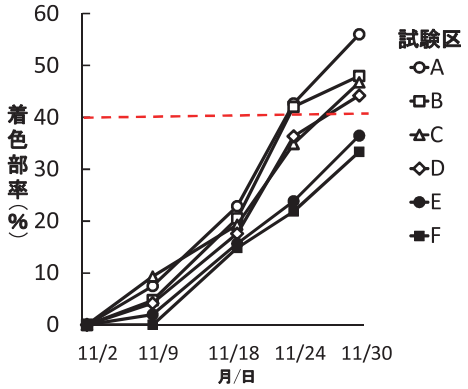

図１　ポットハボタン「晴姿」の着色部率の変化
※着色部率＝（着色部最大径／最大株幅）×100
破線は商品基準の下限を示す
試験区は表参照

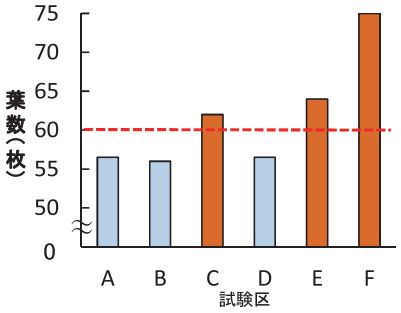

図2　追肥量がポットハボタン「晴姿」の葉数に及ぼす影響（11月30日調査）
破線は商品基準の下限を示す
試験区は表参照

葉数、生体重の不足　　高品質　　着色不良

写真　追肥量によるポットハボタンの生育の違い（11月30日）
左から、試験区Ａ、Ｃ、Ｅ（試験区は表参照）